

平成 19 年 1 月 26 日

定期検査中の 1 号機における原子炉自動スクラム（B 系）警報の  
発生について

平成 19 年 1 月 25 日午後 3 時 46 分、定期検査中の 1 号機で、「原子炉自動スクラム（B 系）\*<sup>1</sup>」の警報が発生しました。当該警報は、中間領域モニタ\*<sup>2</sup>（以下、当該モニタ）に関連する信号（「中間領域モニタ高高／機器動作不良」）にともない発生したものです。

警報発生当時、8 個ある当該モニタで同時に原子炉出力の指示の変動が確認されましたが、中性子源領域モニタ\*<sup>3</sup>の指示に変化が見られないこと、および、午後 4 時頃、すべての当該モニタで指示の変動がなくなったことから、当該モニタの誤動作と判断し、午後 4 時 57 分、原子炉自動スクラム（B 系）の警報を解除しました。

今後、警報発生の原因調査を行います。

なお、当所 1 号機は定期検査中であることから、制御棒が全挿入状態となっており、制御棒の動作はなく、安全上の問題はありません。

また、これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

\* 1 原子炉自動スクラム（B 系）

原子炉を緊急停止するための信号が片系統だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号は A・B 両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。

\* 2 中間領域モニタ

原子炉内の中性子量を計測する装置の一つで、原子炉停止状態から発電開始前までの、原子炉低出力状態を測定するための装置。

\* 3 中性子源領域モニタ

原子炉内の中性子量を計測する装置の一つで、原子炉の停止時や原子炉起動初期段階で使用される装置。